

小論文

<総括>

試験時間	60	分	総解答字数	800	字
------	----	---	-------	-----	---

法と正義という例年と同様の法学部の学部系統的なテーマであったが、今年度より試験時間が 90 分から 60 分へと短縮されたこともあって形式面で大きな変化が見られた。課題文がなくなり、法と正義に関する「学説」が 3 つほど紹介されているだけとなり、要約問題はなくなった。一方で、これまでより細かな要求に従って 800 字以内で意見論述を行うことが求められた。

2023 年度までは要約と意見論述を合わせて 1000 字の文章で解答することがほとんど定番であった。2024 年度は要約がなくなり、設問が 2 つに分割され、それぞれ 500 字の合計 1000 字以内で論述することが求められた。本年度は 2024 年度と比べても大きな変化があった上に、ローマ法大全という受験生にはあまりなじみがないであろう著作からの短い 3 つの引用があるだけだったので受験生は大いに戸惑っただろう。課題文が短くなったため、課題文を手掛かりとして、論述を行うことが難しくなった。法と正義に関する（初歩的な）理解も問われる問題となっており、準備をしていない受験生は歯が立たなかつただろう。

来年度以降も今回と同様の問題が出題されるのかは不透明であるが、過去問の演習や他の大学の法学部の問題などを見ておくことは有効な対策になるだろう。

河合塾の社会科学系小論文の授業では、基礎シリーズから、法と政治をはじめ近代社会の基本原則や時事問題についてしっかりと学んだうえで、完成シリーズを通して繰り返し論理的に記述を行うトレーニングを行っている。したがって、小論文の授業を受講していた生徒にとっては、意外性のある問題だったとはいえ、十分な対応ができたであろう。

<課題文の分析>

大問番号	
内容（主題）	法と正義
出典（作者）	ローマ法大全
長短・難易等 前年比較	長短 (短い・やや短い・変化なし・やや長い・長い) 難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	出題形式	テーマ・課題文の内容	設問	設問形式	解答字数	コメント（設問内容・論述ポイントなど）
	短い課題文	学部系統的		論述	800字以内	「法律の適用は正義の尊重と両立可能であるか」について、両立可能とする立場・両立不可能とする立場からそれぞれ（経験や体験ではなく）普遍的な例を論拠として示しつつ800字以内で客観的に論じる。

※出題形式は「テーマ・課題文（英文を含む場合は付記する）・図表・その他」

※テーマ・課題文の内容は「一般教養的・学部系統的・教科論述的・その他」

※設問形式は「論述・要約・説明・分析・その他」

<答案作成上のポイント・学習対策等>

「法とは善と衡平の術である。」「正義とは、各人に各人の権利を分配しようとする恒常不変の意思である。法の掟とは以下のこと、すなわち、誠実に生きること、他人を害しないこと、各人に各人のものを分配すること、である。」「たしかに過酷ではあるが、法律はそのように書かれている。」という3つの「学説」について、ローマ法の正確な理解が問われているわけではないだろう。特に1つ目の「学説」に出てくる「衡平」という言葉の意味は受験生には難しいだろう。ただ、2つ目の「学説」と合わせて内容を理解すればよい。

従来の設問に比べ要求が細かくなったので、その指示に従って論述を組み立てればよい。「法律の適用は正義の尊重と両立可能であるか」について、両立可能とする立場・両立不可能とする立場からそれぞれ（経験や体験ではなく）普遍的な例を論拠として示しつつ、800字以内で客観的に論じればよい。やや分かりづらいのは、「両立可能とする立場・両立不可能とする立場から」という要求が両方の立場から論じることを求めているのか、それともどちらかの立場に立てばよいのかという点であろう。加えて「普遍的な例」という言葉もやや理解に戸惑うが、ようするに、ごく私的な体験や実感を例として取り上げるなどということだろう。きちんとした法政治学的な論文の書き方の指導を受けずに、体験を書き連ねたり、感想を述べていたりするだけでは評価されないだろう。

学習対策は以下の通り。

- ① 欧米近代の基本的社会原理(人権、社会契約説、法の支配、立憲主義、民主主義など)の理解を深める。
- ② 法学や政治学の入門書を読む。
- ③ 現代社会が直面する法的・政治的問題に対して関心を持ち、(①の社会原理に基づいて) 考察し、自分の見解を言語化する習慣をつける。
- ④ 多くの過去問を解き、適切な評価をしてもらい、書き直す。そして出題されている法・政治学的なテーマについて理解を深める。